**第3回　大阪府泉佐野丘陵地緑地 運営審議会**

日時　平成26年9月29日（月）　14:00～17:00

場所　泉佐野丘陵緑地　パークセンターほか

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　教授　増田昇（会長）

大阪府立大学大学院　教授　下村泰彦

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

**◆ 欠席**

大輪会　事務局長　中村学

大阪市立大学大学院　准教授　嘉名光市

泉佐野市都市整備部　部長　近藤幸信

**◆ 傍聴者**

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　1名

**◆ 次第**

1. 現地確認 14:00～

2. 協議案件 3件　 15:30〜

　　①評価項目検証のためのデータ収集について

　　②平成27年度事業計画について

　　③「水辺の広場」ほかゾーニングについて

3. 協議案件 2件　　 16:15〜

　　④平成26年度パークレンジャー養成講座（後期）について

　　⑤パーククラブ活動報告（7〜9月）

5. 閉会 17:00

◆**開園イベントおよび開設後の状況報告**

大阪府（以下、事務局）より開園イベントおよび開園後の状況について報告。

**増田会長**

・テレビ放映などを録画しているのであれば、パークセンターで放映するとよい。また今後は、地元のケーブルテレビや雑誌が取材のために公園を訪れるはずである。うまく活用するとよい。

・今後は、一般の方々も参加できるプログラムが月に何度か動いているという状況が望ましい。次回の運営審議会では、一般の方々が参加できるプログラムのスケジュールと内容を確認できるように準備していただきたい。

＜**協議案件1：評価項目検証のためのデータ収集について＞**

事務局より、公園の評価項目を検証するために収集するデータについて説明。

**前中委員**

・収集したデータをどのように評価していくのか、早めに検討しなければならない。例えば、動植物の種類や数は時期によって変動するものである。目先の数値の増減に一喜一憂するのではなく、これらを長期的に見てどのような方法で評価するのかを、検討しておかなければならない。

**増田会長**

・植生の定点調査や、野鳥や昆虫を調査する時期などは具体的に定めておくとよい。

**前中委員**

・景観配慮に関する項目について。保全面積などの指標があるが、保全樹林の定義を検討しなければならない。資料に示された計算式では。何かの保全面積が増えれば、他の類の保全面積が減っているということになる。この点も考慮しなければならない。

・今までにない新しい公園なので、アンケートを集めると様々な意見や要望が書かれる。その全てを受け止めてしまうと、公園の理念から離れてしまう可能性もある。したがって、受け取った要望に対してどのような対応をしたのかという情報を蓄積しておき、１つ１つの対応が理念に沿ったものであったかどうかを検証しなければならない。

**弘本委員**

・これからも府民と大阪府が協働で整備を進めていくので、その点を積極的に評価する指標を設けることができるとよい。

**増田会長**

・公園でどんなプログラムが提供され、それに対してどんな参加者が集まったのかという情報と、その方々の満足度に関する情報も収集しなければならない。

・パーククラブは活動自体がプログラムであり、年間でどのような活動をどの程度実施しているのかを記録していかなければならない。

**西台委員**

・うみべの森を育てる会では、活動の記録は必ず写真を撮ることと、都度メモをとってA4のファイルに綴じて蓄積している。

**松井委員**

・パーククラブでは、活動報告書に毎回の活動内容と参加者名、および写真を載せている。

**増田会長**

・その活動報告書をどう定量的に評価していくかということを検討しなければならない。また、報告書の中で挙げられる。課題を運営審議会に提示していただき、その解決策を検討してくとよい。

**松井委員**

・パーククラブの活動への年間参加者数など、数値的なデータは出すことができる。しかし活動内容に関しては、例えば全員の意見を反映することが難しいといった課題がある。

**増田会長**

・参加者数の増減に一喜一憂する必要はないが、例えば屋外での活動に参加者数が減っているのか、あるいは活動が活性化しているのかがわかるようなデータは継続して収集しておくとよい。

**大家委員**

・開園後は、パーククラブの活動には常時十数名参加している。以前は10名を下回ることもあったが、最近は参加人数が安定している。

**山本委員**

・毎年開催しているようなイベントについては、課題が見え始めている。例えばタケノコ掘りイベントを毎年4月に開催しているが、最近はタケノコの生育状況が悪くなってきている。パーククラブで検討した対策としては、肥料の導入のほか、竹林の育成に詳しい講師を招いて勉強会を開催している。また、育成区域も定めた。今後はこのようにして、タケノコの育成も視野にいれて竹林管理に取り組んでいきたいと考えている。

**下村委員**

・パーククラブの年間活動報告は、場所毎の活動内容が整理されている。これは大変貴重なデータであるため、継続して蓄積するとよい。

・この公園は他の18府営公園と違い、パーククラブと大阪府が協働で管理している。この協働を評価することが重要である。公園の運営と管理の両面を評価する指標を定めておく必要がある。各イベントの適性を評価することと、来園者の意見をアンケートで収集しておくことで、数値化できない評価を蓄積しておくことが大切である。

・外部機関について、「運営審議会など」と表現されているが、明確に定めておくとよい。外部評価委員会を運営審議会が担っていることを明確に位置づけ、その会長が増田先生であることも明記しておくとよい。

・運営審議会ではパーククラブとともに公園を巡回し、景観整備などの観点で評価を行っている。この評価内容を公開することができるよう、報告としてまとめておく必要がある。

**増田会長**

・運営審議会の年間スケジュールにおいて、年度の評価を行う時期を定めておくとよい。例えば平成26年度の評価は今年度内に行うのか、あるいは来年度の5月頃に行うのか、ということを決めておく必要がある。

・公園の事業計画やパーククラブの活動方針を議論するタイミングを定めておくとよい。そして、運営審議会の議事録を評価結果とするとよい。

＜**協議案件2：平成27年度の事業計画について＞**

事務局より、平成27年度の事業計画について説明。

**下村委員**

・東地区と西地区のうち、東地区から工事を着手していくという計画だが、中地区と直接繋がっているのは西地区である。東地区から着手する理由は何なのか。

**事務局**

・西地区はまだ、地元との境界問題の調整が済んでいない部分があるため。また、東地区と中地区の連結方法は未定である。

**増田会長**

・今回開設されたのは中地区だが、来年度はこの区域に対する予算は必要ないのか。この公園は、他の公園とは異なる整備方法で進めている。例えばレンジャー棚田を水田にしていくという案があるが、そのためにはイノシシ対策の工事が必要になる。このように開設後も整備が続くことになるが、そのための費用は中地区の管理費の中に含まれていくのか。新しい公共事業となるので、工夫が必要である。既に開設した区域に対しても、熟成させるために資本を投下できる仕組みを検討しなければならない

・開設に伴う運営管理費という項目があるが、これはどのような枠組みの中で計上していくのか。過去の公共事業では、他の区域の工事費を削減し、開設済みの区域の運営費や活動費に回すという方法を実施してきた。しかしこの公園は過去とは異なる方法で、開設した区域を運営していくために、どのような枠組みで予算を組むことができるかを検討しなければならない。ハーフメイドと呼ばれてきた整備をフルメイドにするための工夫である。この仕組みを検討しておかなければ、寄付などにいつまでも頼ることになる。

・従来であれば、開設後は補修費のみ計上していればよかった。しかしこの公園は、例えば水田が計画されているように、熟成させていく活動がある。また昆虫観察会などのプログラムをもっと増やそうと思うと、備品もさらに必要になっていく。

・今は外部資金として大輪会の寄付に頼っているが、このまま外部資金に頼り続ける仕組みを確立するのか、あるいは頼らなくても運営できる仕組みを確立するのか。もし前者の仕組みを確立するならば、資金を獲得する戦略を練らなければならない。

＜**協議案件3：「水辺の広場」ほかゾーニングについて＞**

事務局より、水辺の広場とその周辺のゾーニングについて説明。

**前中委員**

・配布資料では、管理用道路が定められているが、管理用道路のないところでは車を使って何かをすることはできないものと想定しておかなければならない。

・竹林の間伐が計画に含まれているが、竹林のままでもよいところもある。無闇に整備する必要はない。場所を選定し、目標をさらに絞ってもよいかもしれない。

**増田会長**

・このゾーニングに関する計画は工事に関するものであって、工事後の管理はパーククラブも担うこととなる。工事の手を広げすぎると、管理の負担が大きくなることも加味しなければならない。

・工事を進める際にはパーククラブも道づくりなどを担うことになるため、パーククラブが担うことのできる範囲も検討しておかなければならない。そしてその時には、公共事業で発注した場合には、今の水辺の広場のように手づくりの雰囲気を出すことが難しいことも念頭に置かなければならない。

**松井委員**

・「森の再生（企業協働の森）」とされている部分には、昔から存在する道がある。ここを整備すれば、散歩道などをつくることは可能である。

**増田会長**

・企業協働の森は、来年度は資材のみを予算化しておくとよいかもしれない。そして実際に整備する時には、パーククラブを指導役とし、企業の方々が作業するという形を考えることができる。そして例えば年に４回の企業活動をプログラムとして想定するならば、それに見合った作業量を想定しておかなければならない。

**松井委員**

・車が通る管理道路を作るのならば、例えばデッキの橋は大掛かりな構造になってしまうのではないかと懸念している。

**増田会長**

・重機をいれずに工事をするという発注方法もある。ただし非常に高額な工事発注になってしまう。景観を維持できる面積と、つくる労働力を加味して、議論を進めていただきたい。

**松井委員**

・水辺の広場に100平米の建物（水辺の拠点施設）を立てるという案があるが、本当に必要なのか。

**事務局**

・基本設計時に組み込まれていた施設であるが、改めて利用方法などを検討した上で、規模等を検討する必要があると考えている。

**前中委員**

・パーククラブの果樹園に関する計画について。果樹園にするというのは、多様性という観点では良いことであると考えている。ただ果樹を移植する場合には、品種の選定が重要である。適切な品種を購入することも検討したほうがよい。

・もし実生苗を植えるのであれば、その後は接ぎ木をしながら育てていかなければならない。果樹の専門家の助言指導を得た方がよい。

**大家委員**

・パーククラブのメンバーに樹木医の方がおり、講座を実施していただく予定である。

**前中委員**

・樹木の中でも専門性が分かれている。果樹に関しては、果樹の専門家に教えていただくほうがよい。その樹木医が果樹に詳しければよいが、果樹は園芸作物であり樹木とは異なるため、気をつけなければならない。

**下村委員**

・ウメ、スモモ、クリは、一定のボリュームで植えるとよい。ただ、柿がまとまって生えているのは農風景として適切ではない。植栽の適切な間隔を検討していただきたい。

**大家委員**

・果樹を育てるエリアの上段にヤマザクラを植えようとしているが、注意点があれば教えていただきたい。

**前中委員**

・植える場所については問題ない。ただ里山の風景という見方をした時に、複数の種類があるほうが面白い。ヤマザクラは花が綺麗な品種もあるが、同じ品種ばかりを植えると、同じ時期に同じ色で花を咲かせることになる。しかし実生をうまく植えると、春の開花の時期が少しずつずれて、花の色も少しずつ異なり、良い雰囲気になる。

**増田会長**

・中地区だけでなく、東地区と西地区も含めて、移植できるような1〜2m程度の幼木があれば、移植するとよい。ヤマザクラは購入せず、移植するほうがよい。

**山本委員**

・ヤマザクラは実生を30本ほど確保し、ポットで保管している。パーククラブの中では、そのポットで育てた苗を使用するという案が出ている。

＜**報告案件1：平成26年度パークレンジャー養成講座（後期）について＞**

事務局より、今年度9月より開始されたパークレンジャー養成講座（第1回・第2回）について報告。

＜**報告案件2：パーククラブ活動報告（7〜9月）＞**

山本委員より、7〜9月に実施されたパーククラブの活動について報告。

**松井委員**

・パークレンジャーの数が増えてきたが、個々人で様々なやりたいことがあり、全てを活動計画に反映することが難しい。またグループ活動を撤廃し、工種に分けた活動に皆で取り組むという方針をとっているが、まだ浸透しきっていない。他のボランティア団体はどのように工夫されているのか。

**西台委員**

・海辺の森を守る会はパーククラブと比べて人数が少ない。活動する日に、例えば今日は草刈りを行い、その次の日には草刈りの後処理をするという流れで、現場で話し合いながら活動内容を組み立てている。活動に対する要望が多岐に渡ることはあまりない。

**松井委員**

・活動予定の中に、可能な限り実際にする作業を書きたいと考えているが、思うように進まないことが多い。

**西台委員**

・例えば前日に大雨が降ったりすると、予定していた活動ができないことがある。その時には、その状況で必要とされる活動に取り組むようにしている。

**増田会長**

・活動を固定的に進める必要はない。例えば、全体活動がうまくいかなければグループ活動に戻してもよい。ただ一年間ずっと同じ活動をしていてもつまらないので、月に何度かは全員で活動するという形でもよい。また必要に応じて、例えば整備グループと調査グループが協力してやるなど、連携しながら活動するという形も考えられる。

**大家委員**

・2年間グループに分かれて活動してきたが、グループ間の繋がりが希薄になっていたため、今は育成管理担当を設けるという形に移行しようとしている。以前は6〜7人しか活動日に集まらなかったこともあったが、今は平均して14〜5名参加してくれている。グループ活動を撤廃した効果が少しずつ表れているのではないかと考えている。

・現在、3月までの活動計画を検討している。また2月には、来年度の活動方針を打ち出し、運営審議会でも報告したい。

**増田会長**

・運営審議会は、パーククラブの活動に対して承認するような機関ではなく、活動内容に対して知恵を出し合う場という位置づけである。有効に活用していただきたい。

**松井委員**

・伐採済みの竹などについて、チップ化する場合は大阪府にやってもらう必要があるが、タイミングが合わなければスムーズに進まないことがある。そうすると、来園者から放置木がみっともないという苦情がある。大阪府とうまく連携できる方法を検討したい。

**前中委員**

・ササユリの組織培養について。組織培養もよいが、簡単な方法として球根をバラバラに解体して土にまいておけば芽が出て新しく小さな球根ができる。これは「鱗片繁殖」という方法である。

**増田会長**

・活動報告の整理について。一般の方が参加したプログラムとパーククラブのみで行った活動を分けておくとよい。

以上